

2019年12月8日(日)朝10:10～  
12月第2共同主日礼拝式説教

降誕前第2、自由交歓会等  
日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：ヨセフへの告知(20～21節)

聖書：マタイ 1章18～23節

<口語訳>

新約聖書1～2頁

マタイ 1章18～23節

<新共同訳>

新約聖書1～2頁

マタイ 1章18～23節

<新改訳第3版>

新約聖書1～2頁

マタイ 1章18～23節<塚本訳>

新約聖書67～68頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。

◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓**あるいは**説教**と表現される箇所です。

◇本日の**マタイ1:18～23**は、**マリヤの許嫁のヨセフへの夢**の中での**神の告知**箇所です。

⇒ルカやマルコ福音書が、**御子イエス・キリスト様の誕生の経緯**を詳細に記録しているのに、**マタイ**は、①**マリヤの聖霊による身ごもり**、②**主の使いによる御子イエス・キリスト様の夢の中での啓示へのヨセフの反応**、③**処女が身ごもった男の子は、インマヌエルと呼ばれる**との告知で、単々と記録しています。

⇒**使徒マタイへの使信**は、**マタイ28:19、20**の**世界宣教**であり、**世の終わり**であり、**主の再臨**をもって、**新天新地**が築かれ**神の民**が、**主を讚美**できることです。

⇒ここでは、**神の救いの大きな計画**が、**神は、ヨセフへの夢と告知**で、始まったのです。

本論；

◇本日、**マタイ書1章18～23節**から主の**使信**に**思い・心**をとめます。

◆**マタイ1章18～23節**；使徒**マタイ**は、**神の御子イエス・キリスト様の誕生**を**ヨセフ**への**神からの夢と告知**を通して語っています。

◇**17～25節**；**塚本訳◆誕生**

「18 さてイエス・キリストの誕生はこのようであった。——イエスの母マリヤがヨセフと婚約の間柄で、まだいっしょにならないうちに、聖霊によって身重となっていることが知れた。

19 夫ヨセフはあわれみぶかい人であったので、(これを公沙汰にして)女を晒し者にすることを好まず、内緒で離縁しようとした。

20 しかし(なおも)そのことを思案していると、主の使いが夢でヨセフに現われて言った、「**ダビデの末なるヨセフよ、心配せずにあなたの妻マリヤを(家に)迎えよ。胎内にやどっている者は、聖霊によるのである。**

- 21 男の子が生まれるから、その名をイエス（訳すると、神はお救いになる）とつけよ。この方がその民を罪からお救いになるのだから。」
- 22 これはみな、主が預言者（イザヤ）をもって言われた言葉が成就するためにおこったのである。――
- 23 『見よ、乙女が身重になって男の子を産み、人はその（子の）名をインマヌエルと呼ぶであろう。』インマヌエルを訳すると『神はわれらと共に』である。」と、**使徒マタイ**は語っています。

◇18～19節；

⇒「**使徒マタイ**」は、「さてイエス・キリストの誕生はこのようであった」、「イエスの母マリヤがヨセフと婚約の間柄で、まだいっしょにならないうちに、聖霊によって身重となっていることが知れた(18)」、「夫ヨセフはあわれみぶかい人であったので、（これを公沙汰にして）女を晒し者にするのを好まず、内緒で離縁しようとした(19)」と、ヨセフに「聖霊によって(マリヤが)身重になった」こと

が、(恐らくマリヤからの)知らせがあった。

⇒「婚約していた」(18)のに、「夫ヨセフ」(19)と言われ、一見矛盾する言い方ですが、当時のユダヤの慣習で、婚約、許嫁、結婚式の手順で準備し、許嫁になると、生活はともにしていないが、結婚と同等に扱われ、妻、夫と呼ばれたのです。

⇒塚本訳が、ヨセフを「あわれみぶかい人」にしていますが、「正しい人」が正確で、塚本訳は、ヨセフのマリヤに対する対応を先取りして、配慮した訳を選んでいきます。私訳の便利なところですよ。

⇒ヨセフの離縁しようと思った原因は、懐妊が、聖霊によると知らせていましたから、マリヤへの懐疑ではなく、**神信仰**から来る不安で、離婚が律法に反することも、離婚の結果、マリヤに及ぶ裁きを思い、正しさだけの判断が出来ず、悩んでいたのも、彼が自分勝手な生き方をしていない証拠でもあり、誠実な、塚本訳が示すように優しい心の持ち主でもありました。

⇒ヨセフの夢は、インヌマエルの主の配慮ですよ。

◇**20～23節**；「しかし(なおも)そのことを思案していると、主の使いが夢でヨセフに現われて言った」、「ダビデの末なるヨセフよ、心配せずにあなたの妻マリヤを(家に)迎えよ。胎内にやどっている者は、聖霊によるのである(20)」、「男の子が生まれるから、その名をイエス(訳すると、神はお救いになる)とつけよ。この方がその民を罪からお救いになるのだから(21)」、「これはみな、主が預言者(イザヤ)をもって言われた言葉が成就するためにおこったのである(22)」、「『見よ、乙女が身重になって男の子を産み、人はその(子の)名をインマヌエルと呼ぶであろう。』インマヌエルを訳すると『神はわれらと共に』である(23)」と、主の使いは、ヨセフの心の格闘を夢の中で説き明かして下さいました。

⇒①確認；聖霊による懐妊、②男の子が生まれ、その名を罪からの救いをもたらすお方なので、「イエス(訳すると、神はお救いになる)」とするように指示、③インマヌエルとも呼ばれるお方であるとの宣言・告知です。

⇒「インマヌエル(『神はわれらと共に』)」の啓示は、①イザヤ7:14の預言の成就であるとともに、②**神信仰**を告白しているヨセフへの「福音」でした。

⇒**KT師**は、森有正師の東大教師の辞任、離婚、そしてフランスへの留学等の弱さを指摘しつつ、**関根正雄師**の(旧東京教育大学、現筑波大学教授)の「人間というものは、どうしても人にしらせることのできない心の一隅を持っております。醜い考えがありますし、また秘密の考えがあります。またひそかな欲望がありますし、恥もありますし、どうも人に知らせることができない心のひと隅というものがああります。そこでしか、神さまにお目にかかる場所は人間にはない。人間が誰はばからず喋ることの出来る観念や思想や道徳や、そういうところで人間は、誰も神さまに会うことができない。人に言えず、親にも言えず、先生にも言えず自分だけで悩んでいる、恥じている、そこでしか人間は神さまに会うことができない」ということばを引用して、ヨセフの「心の一隅」

において、**神**は「**神からの夢と告知**」で  
出会って下さったと言われます(34頁)。

⇒**森有正師**も、「**心の一隅**」において、**神**に  
出会うことを願ったのでありますと、**KT師**は  
語っておられます。

⇒**神**は、名も知られない無名の貧しい大工に、  
貧しく弱い少女マリヤの体内に宿った**神の**  
**御子**を守ってくれるよう、「**神からの夢と**  
**告知**」で、ヨセフの「**心の一隅**」で、語り、委ね  
て下さったのです。

⇒それによって、**御子イエス・キリスト様**は、  
名実とも、アブラハムの子、ダビデの子として  
の家系に加えられ、十字架の死、死人の中  
よりの復活、大祭司として天の御座に着座  
することがお出来になったのです。

⇒主を**神信仰**で、苦悩した「**心の一隅**」で、受け  
入れたヨセフのように、待降節の恵みの日  
に、クリスマスの主、**御子イエス・キリスト様**  
を「**心の一隅**」で、信じ、受け入れる礼拝は、  
幸いです。

⇒私たちは、**神**からの心の深層を知らせる  
「**夢**」(**幻**)を与えられたいと願います。



## 結論；

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓あるいは説教の箇所です。
- ◇本日の**マタイ1:18～23**は、**マリヤの許嫁のヨセフへの夢の中での神の告知**箇所です。  
⇒ルカやマルコ福音書が、**御子イエス・キリスト様の誕生の経緯**を詳細に記録しているのに、**マタイ**は、①マリヤの聖霊による身ごもり、②主の使いによる**御子イエス・キリスト様の夢の中での啓示へのヨセフの反応**、③処女が身ごもった男の子は、**インマヌエル**と呼ばれるとの告知で、単々と記録しています。
- ⇒**使徒マタイへの使信**は、**マタイ28:19、20**の**世界宣教**であり、**世の終わり**であり、**主の再臨**をもって、**新天新地**が築かれ**神の民**が、**主を讚美**できることです。
- ⇒ここでは、**神の救いの大きな計画**が、**神は、ヨセフへの夢と告知**で、始まったのです。

- ⇒「**ヨセフは、神からの夢と告知**」を受ける恵みに与りましたが、名誉も、地位もない、貧しい大工でした。
- ⇒併し、彼の「心の一隅」を「**マリヤの体内に宿った御子イエス・キリスト様**」に明け渡すことで、人となって、人の心の中と人とともに生きる「インマヌエル(『神はわれらと共に』)」として存在される道筋を用意できました。
- ⇒私たちも、「心の一隅」を内住の聖霊に明け渡し、多くの人々の「インマヌエル(『神はわれらと共に』)」・イエス(訳すると、神はお救いになる)様として迎え入れられる道筋を用意させて頂きましょう。
- ⇒**マタイ28:18~20**;塚本訳 18 イエスは近寄ってきて十一人に言われた、「(いまや)天上地上一切の権能が、(父上から)わたしに授けられた。19 それゆえに、行ってすべての国の人を(わたしの)弟子にせよ、父と子と聖霊の名で洗礼を授け、20 わたしがあなた達に命じたことを皆守るように教えながら。安心せよ、世の終りまでいつもわたしがあなた達と一しょにいるのだから。」